



▶ Nick Saville 博士 講演会報告



11月21日(火)、本校大会議室にて Nick Saville 博士より講演をいただきました。60名近い生徒の参加があり、講演会はとても熱気を帯びたものとなりました。

実はこの講演会に先立って、博士から「ぜひ日本の授業を参観したい」という御希望があり、前日の20日に15Rの「コミュニケーション英語I」の授業を参観されました。その時に、日比谷校生の授業に熱心に取り組む姿勢を見て、予定していた講義の方向性を少し変えた、とのことでした。講義形式というよりも、英語を使ったワークショップのようなスタイルで講演をされることにしたようです。

トピックは「Globalization」についてでした。講演後も質問者が列をなすほどで、博士の講演内容が強く心に響いた様子でした。成果報告書には、多くの生徒が講演に参加してよかったと書いてありました。

[参加者の感想]



・英語の講義だから理解できるか不安だった。でもサビル博士はわかりやすい英語で” globalization” について話してくださり、とても楽しかった。講演後に質問に行った時も丁寧に答えてくださいました。(15R Tさん)

・初めてG10の活動に参加しました。とても面白かったです。私は英語が苦手ですが、今回の講義を受け、とても興味が湧きました。日比谷は英語の学習が盛んなので、積極的に学習していきます。(11R Iさん)

・I really enjoyed Dr. Savill's lecture. I've learning English just for fun, but his presentation told me one of the purposes of learning English. I didn't know the language skills are needed by globalized companies, so the information motivated me to learn language. It was very interesting. (16R Kさん)

▶ 韓国高校生11名 日比谷高校に来校

11月24日(金)、韓国高校生11名が日比谷に来校しました。姉妹校のミチュホル外国語高等学校の生徒との交流を10月に行いましたが、今回は韓国のさまざまな高校から集まった生徒たちでした。4時限目から放課後まで学校の活動に参加しました。昼休みに会議室にお弁当を持ち寄って交流したり、授業中でも積極的に交流しようとする日比谷生の積極的な態度が印象的でした。こういったや小さなやりとりがやがては大きな枠組みでの相互理解につながっていくのだと思います。今後も積極的に参加してください。

韓国の生徒からは、短い時間でしたが、とても充実していて、またいつか日比谷高校に来たいという声が聞かれました。

➡ 平成 29 年度 姉妹校交流海外派遣研修「ニュージーランド Columba College」報告会

11月21日(火)放課後に今年初めて姉妹校締結を結んだニュージーランド Columba College との海外派遣研修の報告会を実施しました。研修でお世話になったニュージーランド大使館をはじめ企業や団体(JAL、NZ航空、富士ゼロックス、産業教育振興中央会)の御来賓の方々や、1学年の生徒及び保護者など大勢の方に参加していただきました。

姉妹校交流一期生となる生徒8名による報告会は、司会の26R石田さんの流暢な英語からスタートし、校長先生の御挨拶や生徒によるプレゼンテーションまですべて英語で行われました。

【①研修目的及び方針②ニュージーランドでの生活体験③ニュージーランドと日本、Columba College と日比谷高校との比較④研修を終えた感想】の順に行われましたが、「百聞は一見に如かず」との言葉通り、カルチャーショックだけでなく現地の人々と直接触れ合えなければ分からなかった、気付けなかったこと、そして他国を知ることによって日本とは?と自国に対して考えさせられるなど、参加生徒の率直な思いや実体験の詰まった内容でした。そして全員がホスト・ファミリーをはじめ多くの人と「人間としての絆」を結ぶことができた感動と喜びがよく伝わり、ニュージーランドのような温かい雰囲気の中で報告会が進められていきます。御来賓2名の方からこのような講評をいただきました。

【ニュージーランド大使館 キャロリン参事官】

「グローバル化が進む中、この世界をつなぐ人々の重要性がますます高まっており、その人たちが世界を変えていくことができる。あなたはどのような世界を見たい、いや、創りたいですか。言語に限らず親切心を含めた様々な方法で世界をつなぎ、暴力や貧困のない幸福な世界をつくっていきましょう。」

【ニュージーランド航空コマーシャルマネージャー タニア・オーさん】15歳でフランスへ行った際に受けたカルチャーショックなどご自身の経験を踏まえ、若いうちに異文化を肌で感じることの大切さを教えてくださいました。「今やどこの国にも行ける時代です。頑張ってください!」とエールをくださいました。

今回の研修の目的である「姉妹校の生徒と相互の環境の中で生活することにより、相手の文化を理解し、よりよい国際関係に貢献する人材の育成をすること」を見事に成し遂げた一期生8名の姿は、来年度参加を検討している1年生の目にも生き生きと映ったようです。「こんなにも早くから研修を行っていたのかと驚きました。現地で楽しそうに交流している姿が印象的で、まだまだ英語に自信はないけれど、自分も挑戦してみたいと思いました。」などの感想も聞こえ、来年度もこのニュージーランド姉妹校研修に意欲的に取り組んでくれる生徒の参加が期待できそうです。1学年の女子生徒の皆さん、二期生として来年の夏に「人間としての絆」を世界に広げていく。その第一歩を踏み出してみませんか。

